

スタートアップで注目を集めるワシントン州・シアトル

兵庫県ワシントン州事務所 所長 池上 卓久

スタートアップ大国・アメリカ

現在、社会的革新をもたらすことにより短期間で急成長するスタートアップは、世界的なブームにあると言われ、各国が支援や育成に力を入れています。中でも、スタートアップに対する投資額やユニコーン企業(※)の数で世界の約半数を占めるアメリカは、世界トップの「スタートアップ大国」であると言えます。

そんなアメリカには、質の高いエコシステム(スタートアップ支援の仕組み)が各地に点在していますが、スタートアップの本場として、まず最初にシリコンバレーを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか？しかし、最近では、家賃の高騰、高い地方税、規制強化等を理由に、シリコンバレーからの人材・企業の流出が見られ、更にはコロナ禍以降のリモートワークの浸透により、この傾向に拍車がかかっていると指摘されています。

これら企業や人材の移転先として、家賃が安く、優遇税制などのあるテキサス州、全米に先駆けて仮想通貨に係る税制改正を行ったアリゾナ州等が挙げられますが、特にワシントン州シアトルの人気の高いと言われています。

(※ 評価額が10億ドル以上、設立10年内の非上場ベンチャー企業)

なぜシアトル？

シアトルが選ばれるのには、比較的安い地方税、豊富な水資源を活用した水力発電による安価な電気料金など様々な理由がありますが、スタートアップの観点から見ると、シアトル及びその近郊に本社を置く世界的なテック企業であるマイクロソフト及びアマゾン、これに全米有数の名門校・ワシントン大学を加えた3者がエコシステムで重要な役割を果たしていることが大きな要因となっています。

まず、マイクロソフトは、シアトルのエコシステムで存在感が大きく、多くのスタートアップが起源を同社に有しており、例えば、オンライン旅行会社のエクスペディアの創業者リッチ・パートン氏もマイクロソフトの出身です。



アマゾン本社のワークスペース「ザ・スフィアズ」

アマゾンについては、2006年に開始したクラウドサービスであるアマゾン・ウェブ・サービス(AWS)による貢献度が高く、AWSを利用すればサーバーへの投資等が不要となるため、スタートアップには大きなメリットがあります。なお、民泊サービスのエアビーアンドビーといったユニコーン企業や上述のエクスペディアなどもAWSを利用しています。

また、ワシントン大学は、IT分野を中心とした優秀な人材の供給源となっているだけでなく、AIやビッグデータ等の

研究者が多数在籍し、企業の受託研究や共同開発を行っているほか、インキュベーター機能も充実しており、多くのスタートアップを輩出しています。

スタートアップ分野における交流

兵庫県は、1963年にワシントン州と姉妹提携を結び、長い交流の歴史がありますが、近年、比較的新しい分野であるスタートアップでも連携が深まりつつあります。

2023年9月、姉妹提携60周年記念事業のため、齋藤知事がワシントン州を訪問した際、ワシントン大学でスタートアップ支援の中核となる「CoMotion」を視察し、多くの起業家を生み出す仕組みや支援等について意見交換したほか、同年11月には

CoMotion側が来県して起業プラザひょうご、同大学と協定を結ぶ神戸大学等を訪問し、今後の連携等に向けた議論が行われました。

また、ワシントン州政府が、2016年から Japan Seattle AI



ワシントン大学「CoMotion」

Innovation Meetup をシアトルで開催し、当事務所も参加してきましたが、2017年からは同Meetupの一環として、テックミッションを日本へ派遣することとなり、2023年6月には、初めて同ミッションが兵庫・神戸を訪問し、アンカー神戸にてピッチ(短時間のプレゼン)イベントが開催されました。



アンカー神戸でのピッチイベント

このほか、当事務所では、ワシントン大学でアントレプレナー教育を担うパーク・センター主催スタートアップ・コンペティションへ参画するなど、関係機関との連携を進めています。

今後とも、ワシントン州・シアトルのスタートアップ関係者とのネットワークを拡大・深化させ、スタートアップ分野をはじめとした両県州の経済交流の促進に努めてまいります。

ひょうご海外ビジネスセンターは、兵庫県が世界3か所に設置する兵庫県海外事務所と連携して、県内企業の海外ビジネス展開を支援しています。本通信は、各海外事務所から寄せられる現地トピックスをお届けするものです。

【発行 公益財団法人ひょうご産業活性化センター ひょうご海外ビジネスセンター】